

SELF- EVOLUTION

20年で拡大してきた事業領域

創業以来、SBIグループは日本のインターネット金融の発展を牽引してきました。一方でIT、バイオ、フィンテックといった21世紀の成長産業やアジア地域への注力投資を行うなど、ベンチャー企業への投資・育成にも創業以来取り組んできました。この20年間で金融サービス事業、アセットマネジメント事業に加え、バイオ関連事業が主要セグメントとして独立し、3つのセグメントを有するグループとなりました。今後は各事業間でのシナジーを創出しながら、より一層盤石な事業体制への進化を続けていきます。

1999年
10月

SBI証券*がインターネット取引を開始。金融業のインターネット化という時流に乗り、日本におけるオンライン総合証券の先駆者として、リテール分野において国内No.1の地位を確立。

*旧 イー・トレード証券

2000年
7月

当時、日本最大規模となる総額1,505億円のベンチャーキャピタルファンド「ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド」を組成。経営理念に掲げる「新産業クリエイター」を目指し、21世紀の成長産業であるインターネット分野をメインターゲットとして注力投資。

2003年
12月

高成長が見込まれるバイオテクノロジー分野に集中的に投資するファンドを設立。ファンドを通じて有望なバイオベンチャー企業の研究活動を支援するとともに、バイオテクノロジーに関わる最先端の知見やノウハウをグループ内に蓄積し、グローバルなネットワークを構築。

2007年
9月

インターネット専門銀行である住信SBIネット銀行が営業を開始。SBI証券とのシームレスなサービス連携等により、SBI証券の顧客基盤からの送客が進み、住信SBIネット銀行の顧客基盤は急速に拡大。後発ながら現在では、インターネット専門銀行の中で国内No.1の預金残高を有するまで成長。

2005年
5月

有望な中国企業を投資対象とするNew Horizon Fundをシンガポールの投資会社と共同設立。この設立を皮切りに、グループのリスク分散とより高い成長を図るため、アジアを中心に潜在成長力の高い新興諸国において現地有力パートナーと共同でファンドを多数設立し、グローバルな投資体制を構築。

2007年
1月

創薬型バイオベンチャーであるSBIバイオテックが事業を開始し、自らもバイオ分野に参入。バイオ関連事業を手がける中で5-アミノレブリン酸(ALA)に出会い、その可能性に着目してALAを活用した製品の研究開発・製造を行うSBIファーマを2008年4月に設立。

2008年
1月

2016年
2月

2008年1月のSBI損保の開業に続き、2015年2月に連結子会社化したSBI生命が2016年2月に保険の引受を再開。これにより証券・銀行・保険という主たる金融業を全て営むこととなり、創業時より構想してきた「金融生態系」が完成。2017年3月には保険持株会社のSBIインシュアランスグループを設立し、傘下にグループ内の保険事業を集約。

2013年
3月

ベンチャー投資の一環として2002年より投資していた韓国のSBI貯蓄銀行[※]を連結子会社化。SBIグループが有する金融業やネット展開の知見の活用を通じた正常債権の積上げ等により、SBI貯蓄銀行は現在、アセットマネジメント事業の利益の柱へと成長。

※旧 現代スイス貯蓄銀行

2012年
4月

国内におけるALA配合の健康食品・化粧品を販売するSBIアラプロモを設立。現在ALA関連事業を行う子会社は中間持株会社であるSBI ALApharmaの傘下に集約しており、グローバルでの事業展開とともに、SBI ALApharmaは株式公開に向け準備中。

金融サービス 事業

世界でも類を見ない、
インターネットをメインチャネル
とする金融生態系を構築

2015年
12月

2018年
1月

フィンテックの黎明期において、同分野の要素技術を有する国内外の有望なベンチャー企業への注力投資を行うFintechファンドを他社に先駆けて2015年12月に設立。更に2018年1月に後継ファンドとしてAIおよびブロックチェーン分野を主な投資対象としたSBI AI&Blockchainファンドを設立。

アセットマネジメント 事業

アジアを中心とした
グローバルでの事業展開
を推進

バイオ関連 事業

ALAを中心に金融市場の影響を
受けにくい新たな収益源に育成